

# 経済・金融 フラッシュ

## 12月BOE金融政策委員会：様子見 優位は変わらず

経済調査部門 主任研究員 伊藤 さゆり

TEL:03-3512-1832 E-mail: ito@nli-research.co.jp

イングランド銀行(BOE)は8日、9日に開催した12月の金融政策委員会(MPC)で政策金利の0.5%での据え置きと資産買い取り(量的緩和)残高の2000億ポンドでの維持を決めた。

10月以降、MPCの票決は3つに割れているが、今回も様子見ムードが支配的で、利上げ、量的緩和拡大ともに支持は広がらなかったと思われる。

### ( 政策金利の据え置き、資産買い取り残高も維持 )

イングランド銀行(BOE)は、8日、9日に開催した12月の金融政策委員会(MPC)で政策金利の0.5%での据え置きと資産買い取り(量的緩和)残高の2000億ポンドでの維持を決めた。政策金利の据え置きは21カ月連続、2009年3月に導入した量的緩和も今年1月に残高が2000億ポンドに達した後、増枠を見送っている。

今回のMPCは政策変更がなかったことから声明文は公表されず、議事内容、票決結果は12月22日の議事録を待たなければならない。前回の票決では、据え置き派はMPCの9人の委員のうちキング総裁を含む7人で、センチンス委員は6月から6カ月連続で0.25%の利上げに、ポーゼン委員は10月、11月と500億ポンドの量的緩和拡大に票を投じ、票決は3つに割れている。

議事録では様子見ムードが支配的で、利上げ、量的緩和拡大ともに支持が広がらなかったことが確認されると思われる。

### ( インフレリスクはバランス、だが不確実性は高い )

四半期に一度見直されるBOEの「インフレ報告」11月号の見通しでは、2000億ポンドの量的緩和の残高維持と2011年後半以降の極めて緩やかな利上げという想定で、インフレのリスクを「バランス」とし、8月時点の「目標を下回る可能性がわずかに高い」から上方修正した。

インフレ率は、目標を1%以上上回る水準で推移し続けているが、「インフレ報告」では、余剰能力が残るため、国内のインフレ圧力は弱く、物価の押し上げ要因となっている景気対策終了による付加価値税率の引き上げや過去のポンド安に起因する輸入物価の上昇圧力が剥落すれば、インフレ目標に向けて鈍化すると見ている(図表1)。しかし、ピークアウトのタイミングや鈍化の度合いは「極めて不確実」としている。

2011年度には4年間で累計約810億ポンド(約10兆円)の大規模な歳出削減がスタートするため、需要が冷え込み、余剰能力がさらに拡大するおそれがある一方、輸入インフレの持続や、12

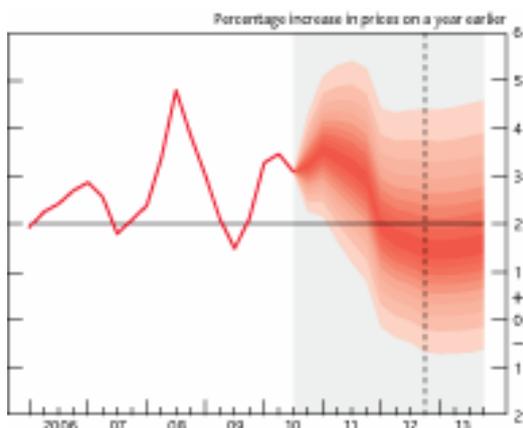
月の一部公共料金の引き上げ、2011年初の付加価値税率引き上げの影響で、インフレ率の上振れ期間がさらに長期化し、インフレ期待が本格的に上向きリスクもある。

今月のMPCでも、「物価の上振れと下振れの双方のリスクに対応できるよう用意すべき」とのスタンスが確認されたものと思われる。

なお、BOEの政策変更が起こりうる節目としては新たな「インフレ報告」の発行月となる来年2月だが、2011年についても景気回復のペースは緩やかな一方、インフレの上振れ傾向が続くと想定されることから、当面は現状維持を継続し、2012年に入ってから利上げに着手する可能性が高いと考えられる（注）。

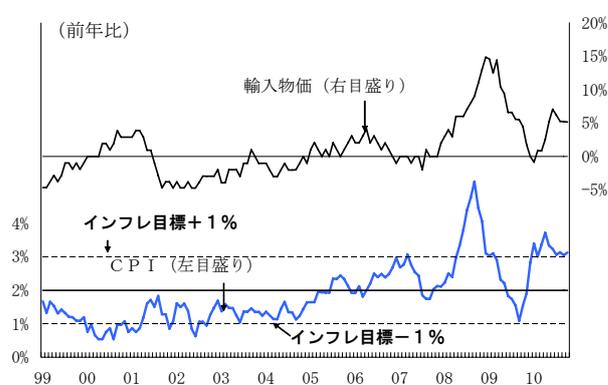
（注）イギリス経済の見通しについては本日発行の「Weeklyエコノミスト・レター 欧州経済見通し」をご参照下さい

図表1 「インフレ報告」におけるインフレ見通し



（資料）BOE「インフレ報告」11月号

図表2 インフレ率の推移



（資料）ONS

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。